

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171500313		
法人名	有限会社 サラサホーム		
事業所名	サラサホーム		
所在地	中津川市手賀野403番地の5		
自己評価作成日	平成26年12月19日	評価結果市町村受理日	平成27年3月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2171500313-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2171500313-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成27年1月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2階ユニットは、男性4人と女性5人のユニットで軽度者と重度者で年齢層の幅も大きいと共に生活している。お互いに思いやりの心も芽生え、助け合って日常生活を楽しく過ごせている。居室は、見晴らしも良く日当たりも良く、生活の場としては満足して頂ける環境だと感じます。  
3階ユニットは、車いすで移動している利用者が多いが、廊下も食堂も広く、重圧感はない。和室の居間や食堂で皆さんが集まり、会話している姿が目につきます。家庭的な雰囲気が自慢出来ます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の2・3階が、生活の各ユニットである。窓から陽光が注ぎ、景観の広がりも雄大で、利用者の生きる活力と、職員の働く意欲の源泉になっている。昨年は、外部評価の軽減適用を受け、これを契機に、地域密着型を踏まえた、新しい理念に作り変えている。職員は「チャレンジシート」に成長目標を掲げ、向上心を持って働いている。そして、高齢者の人生経験から学び、また、先輩や仲間同士で学び合い、サービスの質の向上につなげている。1階の広いロビーは、地域との交流やイベント、研修会場などに活用し、地域に開かれた事業運営を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	以前とは異なり重度化してきた今日、介護体制・職員の意見等を聞きながら現状に見合った理念に変更し管理者と職員は実践につなげるよう努めている。	昨年、開設時より掲げていた理念を、現状に沿ったものに変更し、職員間で共有をしている。地域に密着し、利用者の自立を支え、日々寄り添いながら、心地よい暮らしが送れるように支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所自体が地域の小学校や民生委員もしくは、長寿会の方々と行事や地域の主婦の方との実習の場として孤立することなく交流会を積極的に行っている。小学校の運動会にも招待されたり小学生達とも福祉交流の場として来所していただいている。	自治会の一員として、地域の行事に参加をしている。小学校の運動会に招かれたり、福祉体験で交流をしている。婦人会向けに、介護実習の開催や敬老会行事に、近隣の人を招き、盛大に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症を理解していただく為に地域交流会で主婦を対象とした介護実習を行い入居者の日頃の姿を見ていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では市町村の職員・区長・長寿会・民生委員・消防団・防災関係の方々が欠席されることなく参加されている。`サラサだより`にて報告し改善に努めている。また地域のグループホームと認めてもらい、質の向上の為、意見をいただいている。	会議は、隔月に開催し、行政担当者を含め、地域の役職者多数が参加をしている。地域交流の進め方や防災対策、行事計画、利用者の重度化の対応等を話し合い、サービスの向上と、運営に反映をさせている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者の意見等聞き入れながらケアサービスの取り組みができています。介護相談員の助言の中から援助できていることも多い。	市の担当者へは、運営の実情を報告し、連携をしている。市が派遣する介護相談員が、定期的に訪れ、サービスの質を高めている。市主催の講習会に参加したり、報酬加算や独居者の課題で、助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべての職員が身体拘束の弊害を認識し例外以外の拘束は行ってはならないと自覚している。安全を確保し自由な暮らしの支援に努めている。	身体拘束を必要としないケアに取り組んでいる。ケア方法の改善や、常に安全な環境づくりに工夫を重ねて、危険な原因を取り除き、自由な行動を見守りながら、拘束のない利用者中心の暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法の理解ができる取り組みはアンケート等で行っている。虐待の危険性を早期に感じとり防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	2Fには後見制度の必要性を感じている利用者が一人おられ、家族の方に相談をもちかけているが進行はしていない。(家族様の理解が乏しい)3Fは後見制度を必要とする利用者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に見学をしていただき契約時に説明を行ない、不安や疑問点には答え納得していただいた上に入所の手続きを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一度だが家族会を行ない、利用者や家族の意見・要望を引き出せる場面は作っている。率直な意見等は前向きに聞き入れる姿勢でサービスの質を活かす質の向上を図って支援している。	家族アンケートを、毎年行っている。また、家族会の際にも意見や要望を確認している。「車椅子でテラスへ出られないか」「毎回の行事参加は困難」等の意見があり、それらを検討、調整し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者の状況や実情を直に知っている現場の職員の意見や提案を聞く機会を設け反映させている。	日常業務の中で、職員から意見や提案が出ている。職員個々の、チャレンジシートに努力目標を定め、達成度を評価している。ケアの気づきや、食材を工夫した美味しい食事の作り方を提案し、実践をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各自が向上心を持って働けるよう日頃の努力や実績・勤務状況等の把握はされている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成の重要性を認識し段階に応じた研修の中で、学びの機会を計画的に確保している。職員が働きながら技術や知識を身につけていく支援もしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との交流会を行い研修の機会も持っている。今後も同業者との交流会を積極的に参加し向上させていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様の言っている状況等と食い違いがあることも多く、サービスを導入する段階で本人の言っていることに耳を傾けながら本人が安心して安全に暮らせることへの支援に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階ばかりではなく入居が決まった時点から家族の意見や要望などに耳を傾けながら良好な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族がまず必要としている支援を見極め、今後のサービスも含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、介護をするものとしての関係より生活を共にする者としての関係を築けるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切にしながら本人を支えていく関係を築いている。その中で職員とも絆ができ、安心して暮らしていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの場所についてはご家族様をお願いしているが、馴染みの人に対しては、気楽に来所していただける雰囲気作りに努めている。	家族や知人、友人が訪れ、ひと時を一緒に過ごしている。馴染みの店での買い物や、近くの喫茶店へ出かけたりしている。通院先の病院や道中も、見慣れた場であり、本人希望の馴染みの場所への外出は、家族に依頼することもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い支え合える支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても必要の応じて相談や支援に努め継続した交流はしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「聞いても実現が困難」「認知症だから聞くのは無理」などとは思ったことはありません。家族で介護ができない状況の中で有りホームで暮らしているのです。その人らしく生活をしていただくことが目的と思います。	日常生活の場で、会話や表情から思いや意向を把握している。家族からも、個別の情報を得て、職員間で共有をし、個々の思いに寄り添い、その人らしく暮らせるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方を把握し、今その人に出来ることを共に行い本人が満足して日々楽しく暮らせる支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人が望んでいること、有する力、出来る力を大切に共暮らししている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員・家族・必要な関係者等話し合いなが現状に即した介護計画を作成している。	家族には、できる限り、サービス担当者会議に参加をしてもらい、困難な家族へは、書面で意向を確認している。加えて、必要な関係者の意見を踏まえ、本人の筋力を維持し、転倒や誤嚥予防を含め、介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録をもとに、又ミーティング等で介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して柔軟なサービスの支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安全で、より豊かな暮らしを楽しめるよう、地域・民生委員・消防・ボランティア・病院これらの地域の人の力を借りた取り組みをしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の往診の他に本人・家族の希望する医師にかかれる支援は行っている。	専門科医は、従前のかかりつけ医を継続している。家族が遠方の方は、協力医の受診に変えている。協力医による定期往診があり、夜間でも連絡が取れる体制である。緊急時は、指定の総合病院へ搬送している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきは報告し相談しながら、適切な受診を受けられるように配慮している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	出来るだけ早期に退院できるように病院関係者と情報や相談に努めている。病院関係者とは、そうした状況に備えて、良い関係づくりを行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した現在、終末支援のあり方や事業所での対応は、家族・医師と連携を図りながら、チームで共有しながら支援している。老老介護、または家族のいない入居者に対しての終末期は、職員・医師と話し合い、終末ケアに取り組んでいる。	重度化や終末期の支援は、避けられない現状がある。段階的に、家族や主治医と話し合い、連携をしながら、事業所が対応できる範囲で支援をしている。身近に家族のいない人の終末ケアを、4例行っている。	重度化や終末期の方針を、分かりやすく明文化し、家族と関係者で共有することが望ましい。また、経験を活かし、ニーズに応じた支援に期待をしたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に3回の応急手当の訓練を実施している。体調不良時は、責任者に必ず連絡を取り、対応している。実際の場面で活かせる技術を身に付けたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を問わず、利用者が迅速に避難出来るよう、職員ピラミッド型の連絡網にて遠方の職員でも30分以内には参集できると共に、地域住民との協力体制も築けている。地域住民の方々にも消防訓練に参加して頂いている。	災害訓練は、昼夜を想定し、定期に実施をしている。職員連絡網を重点に整備し、連絡後は、所定の時間内に参集している。地域との協力体制を築き、非常階段の踊り場を広く改修し、必要な備蓄品を確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーの確保については、常に全職員で話し合いを行なっている。特に言葉掛けによって利用者に変化が表れるため、重要視して支援している。	常に、利用者の行動や話しを否定したり、強要しないように取り組んでいる。言葉をかけるときは、目線を合わせて、ゆっくりと話しかけ、穏やかな表情で接し、プライバシー保護の重要性についても、全職員で話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の目・行動の中から希望や相談事があるらしい事は、感じ取ることが出来るため、利用者が相談しやすい雰囲気を持ち、対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合に合わせた介護は行っていない。一人一人の家族関係や他方面等の問題の中から、一番その人に合う暮らしの提供に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい希望に沿ったおしゃれや身だしなみが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	残念ながら、数年前とは異なり、食事作りを希望する利用者は少なくなった。しかし、自分たちで食べた食器の片付けは、当たり前と思われていて職員と一緒にしている。	食事は、ユニットごとに調理し、食べ残しのない美味しい食事を提供している。職員も一緒に食べながら、楽しい会話が弾み、食欲を高めている。食後の片付けやテーブル拭きも、職員と共に、できる人が一緒に手伝いながら、行なっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員全員が、知識や意識を持ち、1日全体を通してバランス良い食事摂取と水分摂取が出来るように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後希望している方には支援している。朝夕食後は、全員口腔ケアを行ない、1週間に一度はポリデントの実施をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗やおむつ減らしに努め、トイレでの排泄を心掛け、支援している。また、排泄時間の把握が出来るように記録をしている。	2階の各部屋は、トイレ付きで、3階は、必要に応じ、ポータブルトイレを設置している。トイレが身近にあることで、夜間も失敗が少なく、自立につながっている。個々の状態に合わせたパッドを使用し、おむつの使用量を減らしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に対しての飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じて予防には取り組んでいるが、困難な時もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	重度化に伴い好きな時間での入浴は困難なため午後と決めているが、その時間帯の中で本人の希望に合わせて入浴を楽しめるようにしている。	入浴は週に3回で、午後に設定をしている。希望者は毎回でも受け入れている。重度者でも浴槽に入れる装置と、シャワーチェアを備え、心地よい入浴を支援している。入浴拒否で、困るような人はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人休息の取れる時間を把握し、無理のない日常生活が送れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用に対しての記録はあるが、常に症状の変化には目配りし、確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴も大変に必要だと思うが、今求めていることを大切に、日々穏やかな生活が送れるように支援に努めたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に沿って戸外に出掛けたり、外気に触れていただけよう、散歩・ドライブには出来る限り出掛けている。	日常的に、周辺の散歩と、ホーム前の庭で外気に触れている。近くの喫茶店や買い物などは、希望者と出かけ、年間計画では、遠方の花見、紅葉狩り、道の駅や観音参り等への外出を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が要求している品に対しては、家族の方の同意を得て職員と一緒に買い物に出掛けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要求があれば、電話をしたりすることもある。現在では、手紙のやり取りの出来る利用者はいない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、車いすで移動しても十分な広さがあり、明るく居心地良く過ごせる空間になっている。。	共用空間の随所に、緑の濃い観葉植物を置いている。壁には、季節を感じる折り紙、切り絵や記念の写真などを飾り、窓からの強い光は、カーテンで調節し、加湿器も備えて、快適な空間づくりをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では、皆と一緒にカラオケ・テレビ等楽しみ、気の合ったもの同士会話したいときは、居室に訪れ、楽しく会話が弾み、生活の場としては居心地良いホームだと思う。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	数年前は、馴染みの家具を持ちこんで頂いていたが、近頃ではあまりこだわりを持っている家族の方が少なく、本人本意で自室を気に入ったように工夫している。	居室には、クローゼットを備え付け、整理整頓が行き届いている。また、2階の各部屋は、トイレ付きである。馴染みの物品等は、本人の好みに配置をし、表札や暖簾も個性があり、居心地のよい居室の工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	不安や混乱を招くことのない物品を使用し、事故のない生活支援に努めている。居室の入り口には、名前の書いてある表札を掲げたり、トイレには、大きく張り紙を張って利用者に分かりやすいよう工夫している。		